

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙, 目次, 奥付, その他

雑誌名	日本語教育論集
巻	24
発行年	2008-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1328/00001855/

日本語教育論集

24号 2008

【本号の読みどころ】

【特集：教科書で教える】

日本語教育において「教科書で教える」が意味するもの

丸山 敬介

教科書ができることとできないこと

－「文型積み上げ式初級教科書で教える」とは－

品田 潤子

これからの日本語学習を教材で支援するために必要なこと

柴原 智代・島田 徳子

【研究論文】

第二言語及び外国語としての日本語学習者における現場指示の習得

－台湾人の日本語学習者を対象に－

孫 愛維

【報告】

「進学動機の自覚を促す」日本語教育実践の意義

－レポート分析とエピソード・インタビューを基に－

市嶋 典子・長嶺 倫子

【英文要旨】

『日本語教育論集』投稿規程・執筆要領

日本語教育論集

24

2008

日 本 語 教 育 論 集 第 24 号

目 次

本号の読みどころ	1
[特集：教科書で教える]	
日本語教育において「教科書で教える」が意味するもの	丸山 敬介 3
教科書ができることとできないこと	
－「文型積み上げ式初級教科書で教える」とは－	品田 潤子 19
これからの日本語学習を教材で支援するために必要なこと	
	柴原 智代・島田 徳子 33
[研究論文]	
第二言語及び外国語としての日本語学習者における現場指示の習得	
－台湾人の日本語学習者を対象に－	孫 愛維 49
[報告]	
「進学動機の自覚を促す」日本語教育実践の意義	
－レポート分析とエピソード・インタビューを基に－	市嶋 典子・長嶺 倫子 65
英文要旨	81
『日本語教育論集』投稿規程・執筆要領	86
編集後記	87

『日本語教育論集』 投稿規程・執筆要領

1. 目的

本誌は、日本語教育および日本語教師教育の内容・方法に関わる研究、特に、教育実践にもとづいた研究、新たな視点に立つ研究、将来の展開が期待される研究の成果を積極的に公表することにより、日本語教育の発展に寄与しようとするものである。

2. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

3. 原稿の種類

投稿原稿は未発表のものに限る。ただし、学会における口頭発表等を論文の形式にまとめなおしたのも未発表とみなす。投稿原稿の種類は以下のとおり。

研究論文：オリジナルな知見や提言を含む理論的、実証的な研究論文

報告：教育実践の報告・分析、調査報告、等

研究ノート：上記の研究論文および報告に至る前の、萌芽的・探索的な段階の研究・報告、等

尚、特定のテーマを設け、内外の研究者に執筆を依頼することがある。

4. 原稿の書式その他

1) 原稿は日本語または英語で執筆する。
2) 原稿は和文論文の場合、A4判横書き、40字×35行で作成し、研究論文および報告は14ページ以内、研究ノートは8ページ以内とする。英文論文の場合、A4判1ページあたり30行とし研究論文および報告は20ページ以内、研究ノートは12ページ以内。いずれも、タイトル、図表、資料等を含むこととする。

3) タイトル（和文および英文）、要旨（和文論文の場合は300字以内、英文論文の場合は200語以内）、キーワード（5つ以内）、本文の順で記述する。

4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。

5) 3) に示した要旨とは別に、英文要旨・英文キーワード（和文論文の場合）または和文要旨・和文キーワード（英文論文の場合）を添付する。分量は3) と同じ。

6) 原稿はできるだけ刷り上がり時のイメージ

に近い形で作成することが望ましい。

7) 投稿時は、審査用複写3部を提出し、審査終了後編集委員会の通知に従い印刷用原稿を提出する。原稿は原則として返却しない。

8) 別紙に、論文タイトル、上記3.の内容区分、執筆者、所属機関名、連絡先（郵便番号、住所、電話番号、ファクス番号、Eメールアドレス）を記し、原稿とともに提出する。

5. 投稿締め切り

25号においては、2008年9月1日（必着）を締め切りとする。

6. 採否の決定

本誌編集委員会が査読・審査し、採否を決定したうえ、締め切り日から3か月以内に結果を知らせる。

7. 採録決定後の修正

採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。

8. 採録となった執筆者には、掲載号2部を進呈する。

9. 著作権

1) 図版の転載など著作権にかかわることがらは、投稿の際に執筆者の責任において必要な処理を行うこと。

2) 掲載された論文等の著作権（著作権法第27条、28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

10. 発行予定

2009年3月末

* 投稿原稿は、下記編集委員会まで郵送のこと。

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会

* 問い合わせは、文書・FaxまたはE-mailで編集委員会まで。

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会

Fax: 042-540-4333（代表）

E-mail: ronshu@kokken.go.jp

URL: <http://www.kokken.go.jp/kanko/>

nihongo_kyouiku_ronshu/

◇・◇・◇・◇編集後記◇・◇・◇・◇

第24号には10編の投稿があり、厳正な審査を経て、研究論文1編、報告1編の計2編が掲載されることとなりました。また、今号では「教科書で教える」というテーマで特集を組みました。投稿10編のうち特集向けの投稿は2編でしたが、残念ながら採用には至りませんでした。特集は寄稿論文3編のみとなりましたが、いずれも「教科書で教える」ということの現状と将来を展望する上で有益な情報を含んでいます。ご多忙の中論文をお寄せくださった丸山敬介先生、品田潤子先生、柴原智代先生、島田徳子先生に心より御礼申し上げます。

『日本語教育論集』は、日本語教育の実践に基づいた研究を積極的に紹介することを主な目的としています。特に、実践報告、すなわち「現場にどのような問題があり、その問題の解決のためにどのような試みがなされ、それがどのような結果をもたらしたか」について書かれた報告は積極的に掲載したいと考えています。みなさまからの積極的な投稿を期待しております。また、本誌に関するご意見もお待ちしております。

編集委員会（記：井上 優）

* 本誌の投稿規程、今までに掲載された論文のタイトルや要旨は、国立国語研究所ホームページ：http://www.kokken.go.jp/kanko/nihongo_kyouiku_ronshu/ でご覧いただくことができます。

* 御意見・御質問はこちらへ：ronshu@kokken.go.jp

『日本語教育論集』24号 執筆者

丸山 敬介（同志社女子大学）

品田 潤子（（社）国際日本語普及協会）

柴原 智代・島田 徳子（国際交流基金日本語国際センター）

孫 愛維（お茶の水女子大学大学院博士後期課程）

市嶋 典子・長嶺 倫子（早稲田大学日本語教育研究センター）

『日本語教育論集』編集委員会委員

阿久津 智（拓殖大学）

阿部 洋子（国際交流基金日本語国際センター）

井上 優（国立国語研究所）

宇佐美 洋（国立国語研究所）

金田 智子（国立国語研究所）

河野 俊之（横浜国立大学）

野山 広（国立国語研究所）

文野 峯子（人間環境大学）

査読協力者（所属略）

池田 玲子，生越 直樹，迫田 久美子，舘岡 洋子，森山 新

事務局

二瓶 知子（国立国語研究所）

日本語教育論集 24

発行 平成20年3月 平19-16

編集 独立行政法人国立国語研究所
日本語教育基盤情報センター

〒190-8561東京都立川市緑町10-2

TEL:042-540-4300（代表）

FAX:042-540-4333（代表）

URL:http://www.kokken.go.jp/kanko/nihongo_kyouiku_ronshu/

2008

日 本 語 教 育 論 集

ISSN 1346-9762